

ちよっと
ひといき...

茶ぐわゆるんたく

151



変りゆく我如古

戦前、宜野湾の人々は、首里方面への道は、主に宜野湾並松街道を使っていたが、1945年6月に着工した普天間飛行場のため、野嵩・真栄原間の道が使えなくなりました。米軍は軍用道路1号線のバイパスとして、新しく野嵩から我如古・真栄原へほぼ直線状に軍用道路5号線をつくりました。それが現在の国道330号です。上の写真は、我如古から真栄原をみた写真です。道右側は戦前から我如古集落で屋敷林が見られ、道左側の茅葺屋根らしき住居一帯は、戦後初期



▲我如古から、真栄原を望む。(1966年)
軍用道路なので一直線、歩道もなく、復帰前であるため、車は右側走行です。



▲現在(2016年)のような交差点となったのは国道330号の西原バイパスが開通し、県道34号線が我如古に接続されてからです。

周辺の各集落の方々が一時的に住んでいた割当地の名残です。この当時、ここは交差点ではなく大きくカーブした道で、真栄原交差点・嘉数・首里へむかう道でした。

現在、この場所は国道と県道が交差する要所となり、交通量も多くなり、歩道橋も作られました。道路沿いには商店が立ち並び、我如古は戦前の区画を残しながらも、アパートや一戸建てが所狭しと建てられ、割当地であった場所もボウリング場などが建ち、復帰前後とはかなり町並みが変わりました。

【問合せ】

市立博物館 ☎870・9317

其の27

ぎのわんの 歴史・文化遺産を歩く

はじめに

今月は、西普天間住宅地区西側の斜面緑地で実施している分布調査について、速報としてご報告します。分布調査とはどこにどのような文化財があるのかを調べる調査であり、発掘調査とは違い、地面を掘らずに地表で確認できる文化財を対象としています。

調査の内容

今回は西普天間住宅地区内斜面緑地の中でも南側、「喜友名グスク」や国指定文化財「喜友名泉」周辺の約5万㎡を調査しています。

分布調査では、現地をくまなく歩き文化財を探していきます。斜面を降り、そして登り、時には泥にはまり靴が脱げそうになりながら進んでいくと、緑の中にはぽつと文化財が現れます。今回の調査では湧水、道跡や水路跡、古墓、用途が不明な構造物まで



▲調査範囲(黄枠)

様々な文化財が見つかりました。

これまでの聞き取り調査や航空写真などから「おそらくこの湧水がミীগーだろう」「この洞穴がマヤーアブだろう」と想像することはできませんが、断定するためには更なる発掘調査や地元の方々に確認していただく必要があります。

中には情報が全く無く、想像力を働かせてもいったい何なのか分からないものも存在します。そのため、少しでも情報をお持ちの方はぜひ文化課までご連絡をお願いします。私たちに皆さんの思い出を聞かせていただけませんか。



▲喜友名泉付近の水路跡
以前は喜友名集落から喜友名泉まで続いていたと思われるが、現在は塞がれている。



▲階段と石積み
奥に見える緑地は坪所であるフトッキアブ。全長約50mの洞窟で、鍾乳石が発達する。

【問合せ】文化課 ☎893・4430